

授業科目名・形態	成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	今野修・千葉孝子	開講期	3年前期・後期	単位数	3

【授業の主題】

周手術期およびリハビリテーション期にある成人期・老年期の対象とその家族の健康問題を総合的に理解し、さらに看護過程の展開を通して、対象の発達課題と健康レベルに応じて、的確な看護判断に基づいた看護の実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 手術を必要とする患者や生命危機状況にある患者および家族の心理状態を把握し、その援助方法を理解することができる。
- 2) 疾病のコントロールやリハビリテーションをしながら、患者がセルフケアの確立に向けて自立した社会生活を送れるような援助の方法を理解することができる。
- 3) 手術中の患者の安全・安楽を配慮した手術室看護師の役割や、手術チームの協力体制を理解することができる。
- 4) 様々な場で提供される周手術期看護、リハビリテーション看護、外来看護等の流れや連携について理解することができる。

【授業計画・内容】（詳細については、成人・老年看護学実習Ⅱ要項を参照）

- 1) 手術およびリハビリテーションを必要とする成人期・老年期の患者様を1名受け持ち、術前から術後まで、あるいは術後リハビリテーション期における一貫した看護過程を展開する。年代による発達課題や身体的・精神的・社会的特徴や役割を考慮したうえで、健康レベルに応じた、個別のかつQOLを重視した看護の実践方法を学ぶ。
- 2) 実習期間中に指定された1日は看護チーム内で複数の患者に対するケアを学ぶフリー実習を行なう。
- 3) 実習期間中に指定された1日は手術室実習を行なう。手術中の患者の安全・安楽を配慮した手術室看護師の役割や、手術チームの協力体制、病棟や外来との連携について学ぶ。
- 4) 実習期間中に指定された1～2日は外来等の実習を行なう。周手術期やリハビリテーション期の対象が安全・安楽に検査や治療を受ける為の支援方法や、継続看護の実際を学ぶ。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

- 1) 前日の実習目標にもとづいて、事前学習、学内演習を十分に行なう。
- 2) 実習が始まる前に、事前学習課題(成人看護学方法論Ⅱ・Ⅲの合同課題)を提示する。

【主な関連する科目】

病態治療学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

成人看護学方法論や老年看護学方法論で使用したテキスト、資料を活用する。

【参考文献】

特に指定しない。

【成績評価方法】

出席状況・実習態度・カンファレンス参加態度(60%)、実習記録(40%)等による総合的評価

【学生へのメッセージ】

急性期は患者様の状況が刻々と変化しやすく、また、リハビリテーション期は、生活行動や価値観における変化の生じやすい時期でもあります。そのように変化する患者様の状態の把握のためには、疾患の理解や、心理的支援の方法、セルフケア獲得への支援等の事前学習を十分行なったうえで、患者様と関ることが必要となります。